

弔詩

追い詰められた死

高椋竜生

山鹿さんが縊首自殺をした。

らんらんと憎しみに燃ゆる

あなたの その日は

あなたをなぶり殺しにした

政治屋と

政治屋と

お抱え学者と

三井を焼きつくすまで睨みつける

山鹿さんは絞め殺された

久保さんを殺したその黒い手で

山鹿さんは絞め殺された

久保さんは絞め殺された

赤字家計簿の実態

(1972年11月の実績)

費目	予算	支出	過不足
主食			
米	4,770円	4,770円	—
麦・パン類	3,000	2,920	80
副食			
魚介類	4,500	4,220	280
肉類	5,000	4,161	839
野菜類	3,000	2,071	929
加工品その他	2,300	2,125	175
調味料	1,000	875	125
その他			
嗜好品	2,000	2,068	-68
酒類	2,000	2,430	-430
計	27,570	25,640	1,930
住居費			
家賃・地代	—	—	—
設備費	—	—	—
什器類	2,000	13,900	-11,900
計	2,000	13,900	-11,900
光熱費			
水道料	—	—	—
ガス代	2,000	1,714	286
その他	500	500	—
計	2,500	2,214	286
雜費			
衣料費	1,000	200	800
身の回り品代	3,000	5,230	-2,230
衛生費	1,000	1,080	-80
保険医療費	500	990	-490
交通通信費	1,000	1,245	-245
教育費	1,000	1,500	-500
交際費	10,000	24,935	-14,935
小負担	3,000	5,200	-2,200
負担計	1,000	1,675	-675
社会補償費	21,500	42,055	-20,555
貯金賦	1,898	1,898	—
月賦	7,500	7,500	—
計	5,000	5,000	—
合計	—	67,968	98,207
			-30,239

山鹿さんは、名は光明。四十八才だった。
山鹿さんは、述べるまでもなく昭和三十八年の
三池川鉱炭じん大爆発の際被災、CO患者とな
り、早くから精神障害症状があらわしていったが、
ついに症状ものの苦しみに耐え切れず、青月
十日、入院先の三池保健院で縊首自殺を遂げた。なかまのたれよりも光りかがやいて
いる長期療養者だった。CO患者十二人め(三池勞
組だけ)の死である。父ちゃんの給料は
一回払いナ?

せがれに返す言葉なし

木永国雄

あだ給料は一回払いナ」といって、あだ信じられない様子。
最初、親父の俺は意味がわからず、ぽかん。金井町金ば、何出かずとも、てまへだ三年しかせん、俺の俺の
しよるとばつ思つてらるのか、そ資金より少しかじやつかへば
れども、親父の俺が内緒の借義ば思つといとか、変な顔つきでニタてや?」。
ややこしくして、親父「なし」というと、「じょやん、いふ
か、あとはなんも聞かんじゃつた。

くさり、三万八千円で書いてある

木永國雄

ひょいとすると、「親父は満

三川指導部十一分会(職場新聞
くわく)。(1月11日発行)から
た。

けん」。

三川指導部十一分会(職場新聞
くわく)。(1月11日発行)から
た。

後がどうなるか?

からうじて貯金で切掛け

▼表「赤字家計の実態」は、手取り四万四千三百円。(縁縁き
三川鉱坑内電機工の一人、四十七歳は五万五千円ほか)それに妻
才の三池労組員の家の家計簿。
家庭は本人の外、四十三歳の妻の收入が二万六千四百円。さらに
一歳の次女(小学六年)という四人の家族。住宅に住み、例にもれず
夫婦共稼ぎ。
▼収入は前月よりの繰越し一千九百九十五円。支出が九万八千三百円だから
残金(翌月への繰越し)一千三百十五円。時金からの払出しにより、
この月をからうじて切掛けたが、



三池の歌ごえは、三池闘争の中で力強い歩みを見せ、燃えあがり、そして励ました。そして今は……?

今年もやいて来た春闇の中で、ようく疲れた労働者作曲家の荒木あんほのう、が、いそゝうの店に見せながら歌われている。後十年)を生んだとき、人びとところがかんじんの三池で、かつてあれほど炎のような勢いで燃え上った「うたごえ運動」はすつかり影をひそめてしまつてゐる。うたごえ祭典に、三池から八度、再び職場に地域だの頃のうたごえを響かせようと、一部有志の手で再結集がすすめられていた。その努力がやっと実つて、いよいよ来たら二十三日、「うたごえサークル」の結成大会を開催する運びにまでなづけた。三池のうたごえ運動は、周知の

歌ごえよ再び
ル結成 サーク